

子どもと向き合う時間を確保し 教育活動を充実するために

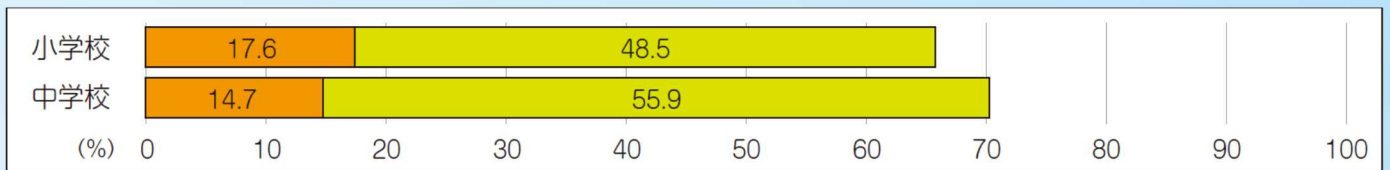
平成28年6月 香川県教育委員会

1 教員業務改善アクションプランの総括

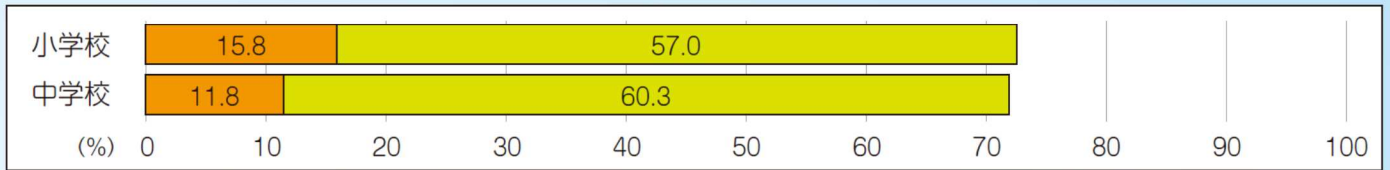
香川県教育委員会では、平成24年度から、教員が子どもと向き合う時間を確保するために、「教員業務改善アクションプラン」に取り組んできました。

学校支援アンケートから、アクションプランの取組を振り返ります。グラフは、アクションプランの8つの内容が、「貴校で業務改善につながりましたか」という問いに対して、肯定的な回答（①よく当てはまる ■■■・②どちらかといえば当てはまる ■■■）の割合(%)を示したものです。

ア 調査等の削減・簡素化



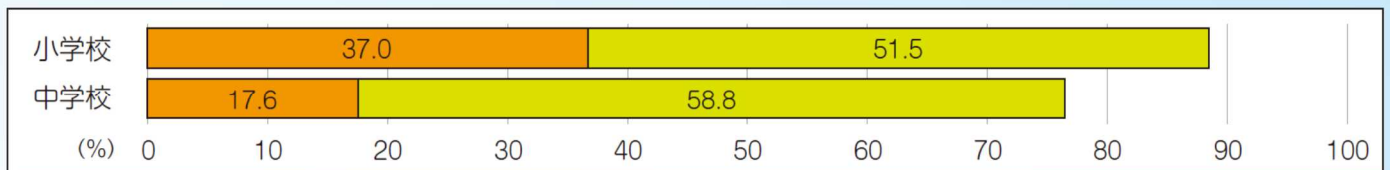
イ 研修会等の削減・負担軽減



県教育委員会では、H23年度に38あった調査を、H27年度には22まで、40%以上削減しました。また、研修会は、H23年度の61から、H27年度には53まで削減するとともに、回数減が15、時間短縮が7、対象者減が3と、負担減に取り組んできました。アンケートでも、多くの学校がこれらの取組が業務改善につながったと回答しています。



ウ 学校支援体制の充実（退職教員の効果的な活用等）

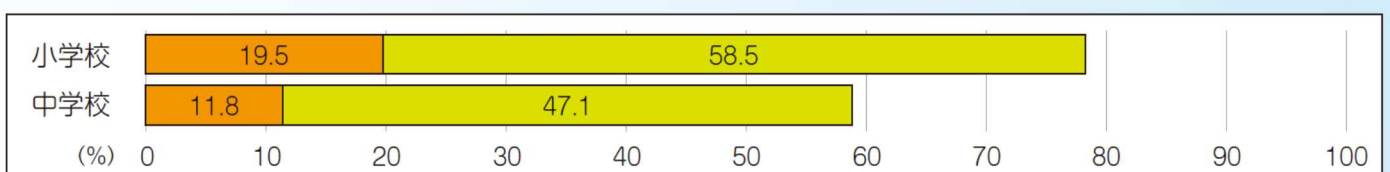


「さめき学びの支援隊」や「県学習状況調査結果入力補助員」等、学校支援体制の充実が業務改善につながったと回答している割合が、8つの内容の中で最も高くなっています。

H28年度は、「学校司書」の配置促進や、校務運営事務に従事する「校務支援員」の配置支援事業等の実施により、さらに学校支援体制を充実させていきます。



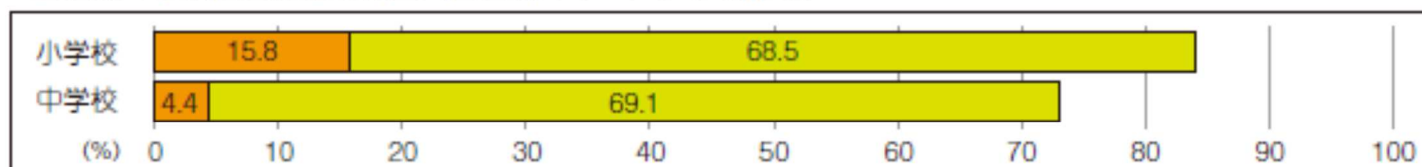
エ ICTの活用による業務の効率化（指導要録作成支援ソフトの普及等）



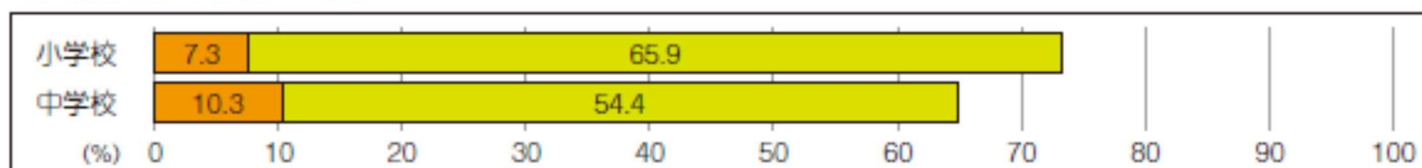
H24年に「児童・生徒成績管理システム」、H25年に「出席統計ソフト」、H26年に「通知票・調査書作成支援システム」を各市町教育委員会及び各学校に配布しました。



オ 管理職の学校経営能力の向上（管理職マネジメント研修等）



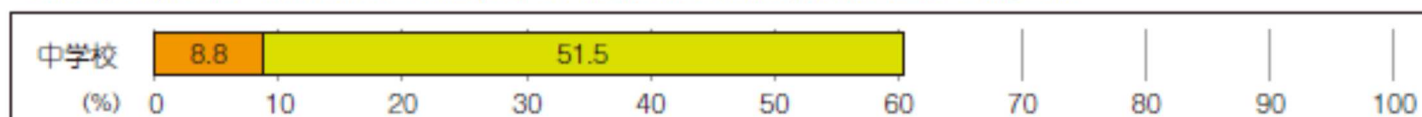
カ 教職員のメンタルヘルス



メンタルヘルス相談事業として、電話・来所相談や新規採用者カウンセリング等を実施しました。H26年度には「職場復帰支援手引きの改訂」、「セルフケアに重点をおいたリーフレット」を作成、配付しました。



キ 部活動の在り方（完全休養日の周知、地域人材等を部活動指導者として派遣等）



校長会と連携した各学校での部活動休養日の設定や、学校の要望等をふまえた外部指導者の派遣を行ってきました。

アンケートでは、教員の負担感の背景に、「土日の部活動で、家庭や私事との両立が難しい状況」や「技術的な指導ができないにもかかわらず指導しなければならない状況」が高い割合を示していました。

部活動は学校教育活動の一環として行われる生徒の自主的・自発的な活動であることをふまえ、生徒のバランスのとれた生活や成長に配慮するとともに、教員の過度な負担にならないようにするためには、土日の休みを増やしたり、正副の顧問が交代しながら指導したりする取組などが考えられます。



2 教員のタイムマネジメント力向上の実践 ～退庁時刻自己決定ボード～

教員のタイムマネジメントにおいて、着実な成果をあげている取組を紹介します。綾川町立綾上小学校の「退庁時刻自己決定ボード」の取組を参考にした東かがわ市立大内小学校の実践例です。

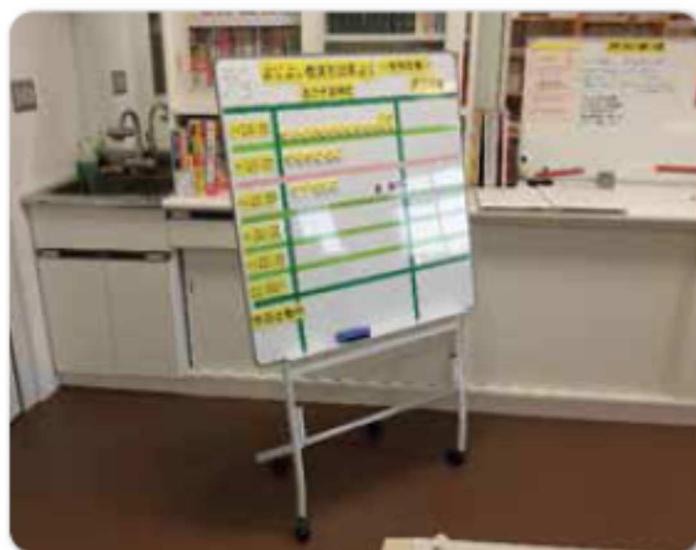
（平成27年度）

大内小学校では、ボードの活用により教員の退庁時間を早めることに取り組みました。

この取組によって、年度当初と比べて、2～3時間早く退庁できるようになったということです。

【取組】

- ①管理職が取組の意図を教員に説明し、共通理解を図る。



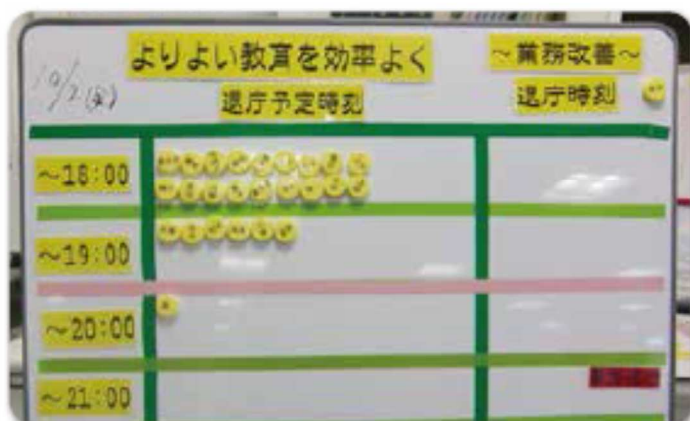
なぜ、遅くてはいけないのか。

- 先生方の健康保持やメンタルヘルス
- 家族の団らんや生きがいなど、私生活と仕事の両立 → ライフステージを考えてほしい
- 地域目（何か問題が起こっているのか？） → 学校への不信感

②登庁時に、各自が「退庁時刻自己決定ボード」に名前を書いた磁石を貼る。ボードには、学校としての最終の退庁目標時刻をピンクのテープで示す。

6月は20:00を最終目標時刻にしている。20:00以降に退庁予定時刻を設定している教員も多い。

徐々に退庁時刻が早まり、10月には最終目標時刻を19:00まで早めている。目標時刻を過ぎた設定は1名のみ。



【教員へのインタビュー】

教諭 齋藤 諒太 先生

Q. 教員経験は？

A. 採用3年目です。

Q. ボードの活用によって何が変わりましたか？

A. これまでは、目の前の仕事の中で気付いたものから順番に取り組んでいました。決定した時刻に退庁するには、仕事の優先順位を決めて取り組まないといけません。そこで、先輩の先生の仕事ぶりを見るようになりました。

また、他の先生の退庁時刻がわかるので、「あの先生には、早めに相談しておこう」といった判断もできます。

Q. 子ども（児童）と向き合う時間については変化がありましたか？

A. 昨年より1～2時間早く帰るようになりましたが、児童と関わる時間が減ったという感覚は全くありません。増えたという感じでもありませんが、心に余裕を持って子どもたちと接することができるようになったと感じています。



指導教諭 蓮井 美佳 先生

Q. 教員経験は？

A. 20数年間で、現在は教務主任をしています。

Q. ボードの活用によって何が変わりましたか？

A. 最初は不安でしたが、段取りを付けないと早く帰れないので「段取り力」が高まったと思います。

教務主任として先生方に早く帰ってもらうために、早めに仕事をお願いしておいたり、できるだけ早く書類を渡したりしています。

プライベートでは、家庭で過ごす時間が増えて家族との会話も充実し、心に余裕も生まれました。今は、この取組がとてもよいものであったと感じています。



1枚のボードが、教員のタイムマネジメント能力を高め、学校としてのまとまりを強めています。

3 県教育委員会等の支援

【さぬき学びの支援隊】

退職教員の方々による支援が受けられます。校内研修や保護者研修における講師、若年教員の授業改善に向けた支援、放課後や別室での学習指導、生徒指導の補助等が可能です。

【研修サポート】

香川県教育センターの職員を派遣し、校内研修の指導をはじめ、学習指導、学級経営、特別支援教育、情報教育等、幅広く指導・支援します。

香川県教育センター教育研究課 TEL 087-813-0931

【家庭教育支援ボランティア】

「家庭教育推進専門員」や「さぬきっ子安全安心ネット指導員」が、保護者や教職員を対象としたワークショップや研修会を行います。若年教員等が担任する学級懇談会で、保護者の交流や話し合いをコーディネートすることも可能です。

【学校支援ボランティア】

地域住民の参画により、学校の教育活動を支援する仕組み（学校支援地域本部）をつくり、地域コーディネーターの連絡調整で、様々な学校支援活動を行います。

生涯学習・文化財課 TEL 087-832-3770

【運動部活動の工夫・改善支援事業】

外部指導者を派遣し、教員の技術指導力の向上等について支援します。

【運動部活動指導者の指導者養成事業】

教員及び外部指導者向けの研修を実施しています。

【武道等指導充実・資質向上支援事業】

武道等の必修化に対応し、優れた指導力を有する体育指導員を派遣し、武道の指導や研修会を実施します。

保健体育課 TEL 087-832-3761

【人権・同和教育出前講座事業】

人権・同和教育課の職員を派遣し、研修会等の指導及び助言、講話、講演などを行います。

人権・同和教育課 TEL 087-832-3778

【相談機関紹介】

健康福利課 メンタルヘルス相談 ～面接・電話対応～

TEL 087-832-3798 月曜日～金曜日（祝日等を除く）9:00～17:00

香川県教育センター教育相談課 来所相談（要予約）

TEL 087-813-0945 月曜日～金曜日（祝日等を除く）9:00～17:00

第2・4土曜日 13:00～17:00

教職員相談室 メンタルヘルス相談 ～面接・電話相談～

TEL 087-832-8349 第2・4土曜日 9:00～17:00

こころの電話相談（香川県精神保健福祉センター）

TEL 087-833-5560 月曜日～金曜日（祝日等を除く）9:00～16:30